

## 小学校社会科における個に応じた価値的知識の獲得につながる調べ学習の提案

—単元「どうする！？福永家！」を事例として—

教科・領域教育専攻

指導教員 井上 奈穂

社会系コース

千葉 晃平

### 1 本研究の目的と課題

今日の小学校社会科における地域学習は、調べ学習が中心となっている。今日の地域学習の際の調べ学習では、「地域への愛着をもつ」「地域社会の一員としての自覚を持つ」といった態度目標に主眼が置かれるばかりに、共感的理解に比重が置かれ、理解を図るうえで重要な社会的なものの見方や考え方を持つまでには至っていない授業実践が散見される。

調べ学習は、体験が豊かでない小学校段階においては有効な手立てであり、一般化された知識を探究する上でも有効である

地域学習においては、地域社会の事象をより科学的に捉えた上で地域の一員として自覚を持ったり、地域への愛着を持ったりできるような活動こそ、将来的に地域活性化に貢献できる人材の育成につながる。そこで、小学校地域学習において調べ学習を用いて知識の一般化を行い、個に応じた価値的知識の獲得につながる先行研究を分析し、その課題点を克服した授業開発を行う。

### 2 小学校社会科における調べ学習の意義と課題

これまでの調べ学習は大きく3つに大別される。3つの調べ学習を踏まえ、課題点が2つ見つかった。

1 点目は、資料と知識の関連性である。どの資料からどの知識が導かれるのかということが明確でない。

2 点目は、価値の排除である。共感的になってしまえば、知識の一般化が難しくなり、また、知識の一般化を重視すると価値が排除されるという問題がある。

これらを踏まえ、「知識と資料の関係性の明確化」「子どもたちの生活体験を重視した知識の一般化」を行うことで個に応じた価値的知識を獲得できるという仮説を立てた。

### 3 先行研究の分析

前節で立てた仮説に基づき、先行研究の分析の視点を「①知識と資料の関係性」「②仮説→検証というプロセス」「③個に応じた価値的知識の形成」という3点に定め、三つの実践の分析を行った。

分析の結果、次の3点が明らかになった。一つは、知識と資料の関係である。生活体験を基盤として、「体験的知識→記述的知識→説明的知識」と順を追って資料を効果的に用いながら知識の一般化を行っている実践では、子どもの認識がばらつくことなく、知識の一般化が行えていた。

二つ目は、「仮説→検証」のプロセスによって子どもたちが主体的に知識を構成しやすくなる

という点である。分析した三つの実践は子どもたちが話し合い活動などを通して子どもたち自身が下位の知識から上位の知識を得るという流れができていた。

三つ目は、知識が増えてきた際に、振り返る工夫が必要であるという点である。調べ学習を用いて知識の一般化を行う際は、扱う情報量も増えてくるため、それらを工夫してまとめ、振り返ることが重要となることが分かった。

#### 4 小学校社会科における個に応じた価値的知識の獲得につながる調べ学習の理論

先行研究の分析と仮説から、子どもたちの生活体験を基盤としながら、「仮説→知識」のプロセスを用いて知識を一般化していくことが必要になると明らかになった。

また、個に応じた価値的知識を獲得する上では、題材の選定も非常に重要になる。題材については、子どもたちの生活体験に根差したものであり、最終的に地域への展望などが描きやすいことが条件であると明らかになった。

そして、多くなってしまった情報をまとめるツールとして ICT 機器を用いることとした。また、google my maps などの地図アプリケーションを有効に使い、ICT 機器の「即時性」「共有性」「保存性」といった面を生かしながら実践を行う必要があることが明らかになった。

#### 5 小学校社会科における個に応じた価値的知識の獲得につながる調べ学習—単元「どうする！？福永家！」の場合—

理論を踏まえ、授業開発、鳴門市鳴門町高島内の小学校で実践を行った。題材として、重要文化財である福永家住宅を選んだ。子どもたちの生活体験の中で知っている施設であり、地域

への展望を考えるのに適した題材だからである。

本単元は、小学校 6 年生社会科の授業で 5 時間構成となっている。

授業時数の関係で、知識の一般化を行う際に調べ学習を取り入れることができない場面があった。しかし、最終的に子どもたちは福永家住宅を巡る歴史や、周りの地域の歴史（知識の一般化）を踏まえて地域への展望（個に応じた価値的知識）を記述することができていた。

#### 6 本研究の成果と課題

成果と課題は 2 点ずつある。

成果の一つ目として、知識と資料の関係と「仮説→検証」のプロセスから、調べ学習によって知識を一般化し、個に応じた価値的知識を獲得させることができるということを実践で証明できた点である。

二つ目は、3, 4 年生で行われている地域教材を用いた授業であるが、6 年生の歴史と公民の間の授業において地域教材を用いて実践を行った点である。

課題としては、一つ目に、調べ学習を学習場面に多く組み込んだ場合について実証できていないという点である。子どもたちが多くの情報を扱う場合、どのくらいの時間数がかかるか、また子どもの様子はどうか、ということが授業時数の関係上、実証できなかった。

二つ目に、子ども理解と地域の状況の把握である。生活体験を基盤として知識を一般化する場合、その地域の状況の把握や子ども理解が何よりも重要となる。今回は出前授業であったためその点が不十分であった。この 2 点に関しては、今後、自分が小学校現場に出た際の実践上の課題としたい。